

令和 7年度予算見積調書

課室名：青少年課
 担当名：企画・非行防止担当
 内線：2905 (単位：千円)

番号	事業名				会計	款	項	目	説明事業			
P43	バーチャルユースセンター事業				一般会計	総務費	県民費	青少年育成指導費	青少年総合支援事業費			
事業期間	令和 6年度～令和 8年度	根拠法令	子ども・若者育成支援推進法第13条				針路分野施策	05 未来を創る子供たちの育成 0502 豊かな心と健やかな体の育成	SDGsゴール	1, 4, 10	SDGsターゲット	1-2, 1-b, 4-5, 10-
1 事業概要 居場所の数が多い子どもほど自己肯定感が高く、将来に希望を持っている。子どもが自由に選べる居場所は、地域に加えてより身近なバーチャル空間にも設置して多様性を確保することが必要である。 そこで、バーチャル空間に子どもの居場所となる場を整備することで、あらゆる子どもに「居場所」があり、活躍でき、安心して暮らせる埼玉県を目指す。 バーチャルユースセンター事業 27,053千円					5 事業説明 (1) 事業内容 全庁共通メタバース空間を利用して、リアルでは自己表現が難しい小学生から大学生程度までの子どもたちが安心して気軽に参加できる、体験・交流・相談等の機能を備えたバーチャルユースセンターを設置・運営する。 令和7年度は、4月～9月にかけて試験的に運用して運営方法などを検討し、10月から本番運用を行う。 (2) 事業計画 ・バーチャルユースセンターの運営を委託 ・バーチャルユースセンター運営の検討会議を実施 (3) 事業効果 リアルの他にバーチャルにも居場所を整備することで、あらゆる子どもに多様な居場所があり、将来の夢や目標を持つなど、自己肯定感を高めることができる。 また、居場所で大人と信頼関係を構築することによって、子どもが生きづらさを感じるがあっても、気軽に相談し、適切な支援により生きづらさを乗り越え、生き生きと活躍することができる。 【活動指標(アウトプット)】 居場所の運営(利用者240人/年)、検討会議(3回程度)、相談(100件/年) 【成果指標(アウトカム)】 「居場所だと感じる」利用者の割合 50%、将来の夢や希望を持つ中学生の割合 75% 適切な支援につながった件数 20件、深刻化の予防につながったと感じる支援者の割合 80% (4) 県民・民間活力、職員のマンパワー、他団体との連携状況 ・民間有識者を交えた検討会議を設置し居場所の効果的な運営を図る ・居場所の運営を民間団体に委託し、民間のノウハウを活用する ・本事業と市町村の居場所や支援を相互につなぐため、市町村と連携するほか、ノウハウを共有する							
2 事業主体及び負担区分 (県10/10)												
3 地方財政措置の状況 なし												
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 9,500千円×1人＝9,500千円												
予算額		財 源 内 訳							一般財源	前年との 対比		
決定額	27,053								27,053	8,193		
前年額	18,860								18,860			

事業内訳書

事業名	バーチャルユースセンター事業		
単位事業名	バーチャルユースセンター事業	予算額	27,053千円

○歳入

(単位：千円)

款・節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
一般財源	27,053	8,193	
合計	27,053	8,193	

○歳出

(単位：千円)

節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
報償費	867	△138	検討会議謝金 207千円 体験・交流等謝金 660千円
旅費	45	△22	連絡調整旅費等
役務費	1,463	33	広報費用 1,100千円 研修費用 330千円 オフ会保険料 33千円
委託料	24,678	8,419	ユースセンター運営委託費
使用料及び賃借料	0	△99	
合計	27,053	8,193	